

いしづち

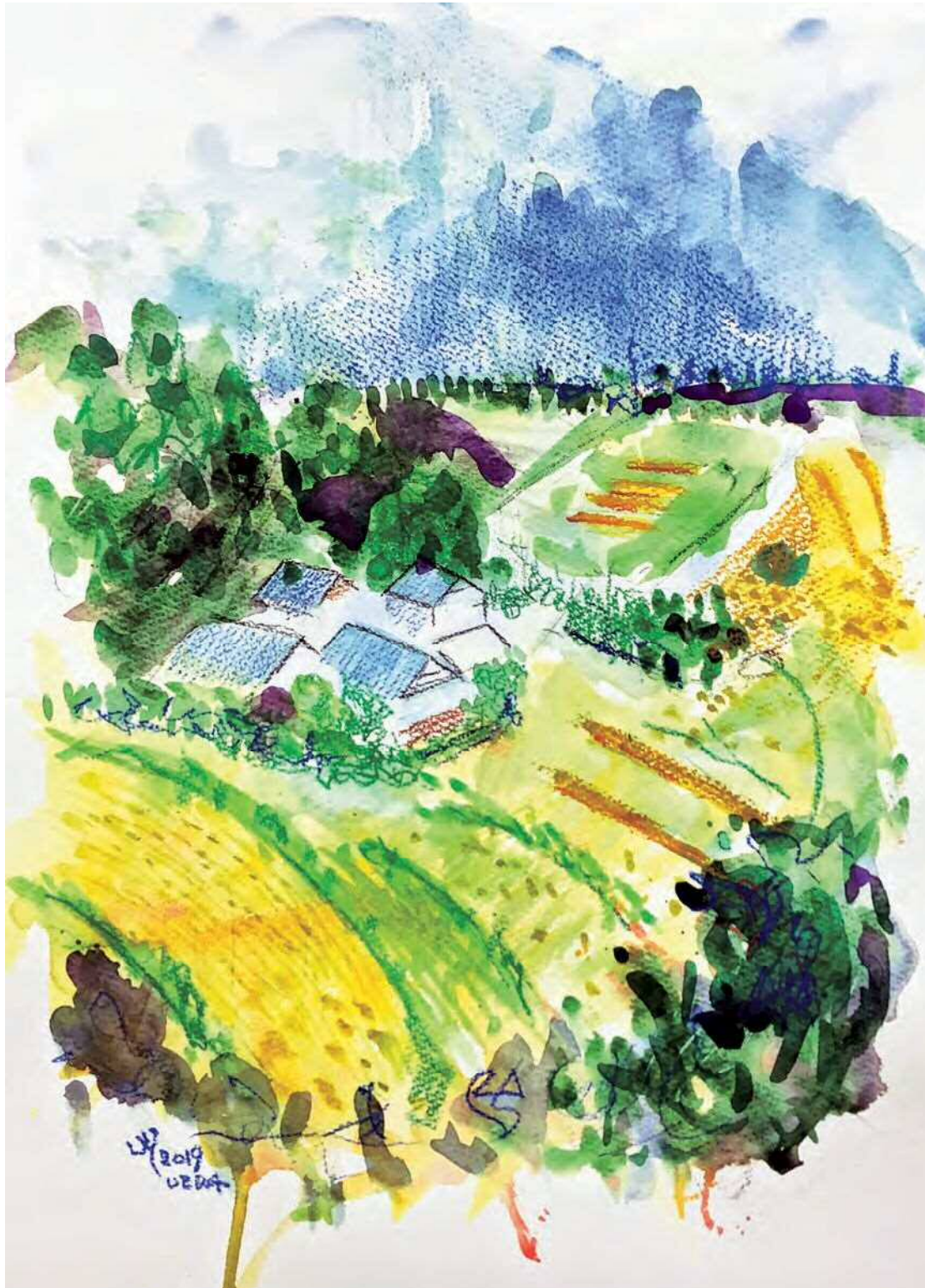
2020.1

No.132



公益社団法人 愛媛県建築士会

<http://www.ehime-shikai.com>



年頭のご挨拶 年頭にあたり
建築士会全国大会「北海道大会」参加報告
伝統的建造物 鬼北町日吉・庄屋井谷家住宅

1	年頭のご挨拶	年頭にあたり	会長 赤根 良忠 ……①
2	年男・年女	年男として新年を迎えて 6回目の年男にあたって！ 年男の抱負について 年男（還暦）を迎えて マニキュア 5回目の年男 年男になって 還暦を迎えて 年男として Message to myself in the future. 年男の抱負 年女 ゆったりと 5回目の年男	四国中央支部 尾藤 淳 ……② 新居浜支部 安藤 直和 ……② 〃 瀬尾 祐貴 ……② 西条支部 城戸 一也 ……② 〃 佐藤 尚武 ……② 今治支部 宇崎功二郎 ……② 〃 南條 公德 ……③ 松山支部 竹内 浩 ……③ 〃 村上 雅幸 ……③ 伊予支部 西岡 篤臣 ……③ 八幡浜支部 繁木 俊忠 ……④ 西予支部 梶原 明華 ……④ 〃 和氣 忠孝 ……④ 宇和島支部 豊田 恵介 ……④
3	建築士会全国大会「北海道大会」参加報告		総務・企画委員会 武内 邦彦 ……⑤ 新居浜支部 白石 公成 ……⑥ 西条支部 白川 祐司 ……⑥ 宇和島支部 與那原 浩 ……⑦
4	伝統的建造物	鬼北町日吉・庄屋井谷家住宅	宇和島支部 酒井 純孝 ……⑧
5	スケッチ紀行	日暮別邸記念館～新居浜、住友営繕部のこと	松山支部 安藤 雅人 ……⑩
6	委員会報告	第10回建築甲子園審査報告 二級建築士設計製図試験受験者のための参考事例見学会 支部対抗ソフトバレーボール大会報告 優勝報告 最下位 東予見学会 in 新居浜	建築甲子園委員会 副委員長 大野 順作 ……⑬ 青年委員会 近藤 岳志 ……⑭ 西条支部 河上 正也 ……⑮ 松山支部 渡邊 道彦 ……⑯ 女性委員会 叶 貴美 ……⑰
7	支部報告	松山支部主催 ポウリング大会 優勝報告 最下位 東温市横河原区自主防災会「建築士による防災講座」	松山支部 菅野 林次 ……⑱ 〃 成松弘之助 ……⑱ 〃 渡邊 道彦 ……⑲
8	けんちくの輪	焚き火をしながら思うこと 昭和から令和、その間の話	今治支部 曾我部 準 ……⑳ 松山支部 大塚美由紀 ……㉑
9	お知らせ	令和元年度 第5回理事会概要報告 専攻建築士（新規・更新）登録申請受付期間のお知らせ	事務局 ……㉒ 事務局 ……㉒

※尚、表紙及び本誌記事の無断転載を禁じます。



水彩画

題：「久万高原町・棚田」
上田 勇一
[表紙画について]
四国の軽井沢と呼ばれる久万高原町は、西日本最高峰の石鎚山をはじめ、日本三大カルストに数えられる四国カルスト、水質日本一に輝く仁淀川の源流域に広がる面河溪など、全国レベルの自然遺産の宝庫です。
※参考文献／久万高原町観光協会HP

表紙作者 上田 勇一 プロフィール

1974 東京生まれ
1980 小学校から高校まで松山在住
1990 東日本建築教育研究会製図コンクールにて奨励賞
1991 愛媛県内高校生建築競技設計にて会長賞（愛媛県建築士事務所協会主催）
1993 画家・高橋勉氏に師事。約10年間、古典絵画技法全般を学ぶ
1996 日本工業大学建築学科 卒業
1998 画家として活動を開始する。東京や埼玉にて毎年個展開催
2002 日本ファンタジーノベル賞受賞作者「世界の果の庭」（新潮社）の装丁担当
2003 美術家の登竜門である昭和会にて優秀賞（東京／日動画廊）
2010 愛媛県美術館に作品「ドライフラワー」收藏される
2015～17 愛媛新聞 冊子「アクリート」表紙画連載
2017 絵画教室やオリジナルブランド額工房「樹リチェルカ」を設立「えひめの塗り絵」を出版
その他、出版装丁画や受賞多数、全国にて個展中心に活動
現在、現代日本美術会 会員／審査員

年頭にあたり

会長 赤根 良忠

新年あけましておめでとうございます。

会員の皆様には、平成から年号が変わり令和最初の希望に満ちた明るい新春を迎えられたこととお慶び申し上げます。

旧年中は、本会の運営にご理解ご協力また多大のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年も大地震こそ発生しませんでした。相次ぐ勢力の大きな台風により日本列島の広範囲に大雨・強風による被害が発生し、元の生活に戻れていない方がおられます。また、一方県内でも昨年西日本豪雨により現在も仮設住宅住まいの方がおられます。見舞い申し上げます。

今年はいよいよ、オリンピック開催の年であり56年ぶりにオリンピックが東京で開催されます、平穩な一年となってほしいものです。

昨年は本会としての一大会事であった、老朽化並びに耐震強度不足による愛媛県建築士会館の建て替え工事が5月末に無事完工しました。新建築士会館での業務も既に半年以上となります。通常業務に加え1階会議室では会議・講習が次々開催されてフル活用とまでいきませんが、徐々に会館利用機会が増えているようです。応急危険度判定の拠点となる耐震にも安心・安全な建物で発生確率の上昇した東南海地震にも備えることが出来ました。新会館建設に際しては、金融機関はもとより本会会員さんからの借付け、また幅広い企業・団体・個人さんよりの多くの寄付金を賜り、昨年本誌2019・9月号に芳名録を掲載させていただきました。目標額を超えることが出来たことについてありがたく御礼申し上げます。

当会の文化財まちづくり委員会活動にて永年調査した古建築の貴重な調査資料33年分をまとめた「愛媛の古建築を訪ねて」としての冊子について「都市計画法・建築基準法制定100周年記念」として国土交通大臣より感謝状をいただきました。事務局で好評販売しております。興味のある方は貴重な資料としても購入、一読していただきたいと思っております。

令和2年度は建築基準法の改正の中でも建築士試験の受験要件が変わり、新しい建築士制度が始まります。建築士の人材を確保するため受験資格が見直され、受験機会が拡大され、これまでの受験要件であった実務経験が建築士免許登録の要件となり、結果的に受験の機会が増えることとなります。1級建築士受験については学歴(建築系)を満たすことで即建築士試験を受験可能となります。また実務(業務)経験の対象範囲も広がることから、建築士として「建築物の総合的な専門家」として役割を果たすことが求められることとなります。改正に併せて設計図書保存の見直しもされます。

建築士として忘れがちな「住所・死亡・廃業」等の届

出の義務もあります、今一度確認されてはと思います。

今年度も残りわずかですが、年度末に向けて会員増強につなげたい青年部主催の建築士免許登録セミナーをはじめ応急危険度講習会・CPD認定講習会の他、耐震診断派遣事業など多数の事業があります。事務局・担当委員と共に協力し業務を推進していきたいと思っております。

また令和2年度、愛媛県建築士会は建築士会中四国ブロック9県の幹事県となります。青年女性委員会においても中四国ブロック青年女性大会が6月に開催されます。準備も順調に進んでいるようです。大きな行事が平年より多いと思っております。

会員の皆様はもとより関係各位の皆様のご協力ご支援をよろしくお願い致します。

人口減少と共に漸減している正・準会委員・賛助会員増強に知恵を絞り、会員増に力を注ぎたいと思っております。

新年が愛媛県建築士会にとって、また会員の皆様にも充実したより良い発展の年となるようご祈念申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。



愛媛県建築士会館



愛媛の古建築 事務局にて好評販売中

この度、赤根会長におかれましては、永年にわたる建築設計監理業務に精励された功績によりめでたく「黄綬褒章」を受賞されました。心からお喜び申し上げます。

年男・年女の抱負

年男として新年を迎えて

四国中央支部 尾藤 淳

新年あけましておめでとうございます。

年男ということで、この12年間を振り返ると、激動の時期を過ごしてきたと実感しています。この間に職場を3度にわたって変わりました。実父の設計事務所から建設会社、住宅メーカーを経て元に戻り、設計事務所を継ぎました。その経験が今の自分自身を形づくっています。

事務所の経営者となってからは、それまで幽霊会員でしかなかった建築士会の活動に積極的に参加するようになりました。そのおかげで知り合いも増え、新しい刺激を受けています。色々な出会いや体験に感謝しつつ、今後も自己研鑽を欠かさぬよう頑張っていこうと思います。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

年男（還暦）を迎えて

西条支部 城戸 一也

年男も5度目、いわゆる還暦を迎えます。

3度目の年男の前年に事務所を開設し25年、思い起こせば、もっとできたはずという念はありますが、時ここに至っては、無理せず納得のいく仕事をしようと思います。

2月には新婚旅行で行った沖縄に家族で還暦旅行の予定ですが、前回は首里城再建前、今回は首里城焼失後でもとても残念です。

日本一の富士山登山もしてみたいし、いろんな場所にも行ってみたい、そのためには体力維持と後継者の育成が必要なので、これから頑張っていこうと思います。

6回目の年男にあたって！

新居浜支部 安藤 直和

孫達からのお願いごとを叶える為に、まだ仕事を頑張っている今日この頃。まだ孫達も小学校低学年であり、年に2度ほど寄集まるので、その時は近場に宿泊し楽しみの小旅行を計画実施して、仲良く遊んでいます。去年は、鹿児島島の孫宅付近へ、しまなみ海道周りの2回分。

最近は、仕事の合間に時間をつくり、勤務事務所周辺を徘徊しています（健康管理の為のお散歩）。間食は、出来るだけ止め、食事は規則正しく腹8分目を心掛け。

マニキュア

西条支部 佐藤 尚武

早いもので、今年、年男を迎えることになりました。

12年前は無かった白髪も、ここ数年は目立ってきています。先日、子供の幼稚園の保護者説明会に先立ち、妻から、髪を染めるよう勧められました。自分自身は、いつも通り近所の散髪屋に行くつもりでしたが、若いお父さん、お母さんに混じって、夫が「おじいちゃん」に間違えられるのを案じたのでしょうか。染めて2週間たちますが、白髪の染まり具合にびっくり。今では、結構気に入っております。

年男の抱負について

新居浜支部 瀬尾 祐貴

思い返すと12年前は県外で就職し、結婚・長女誕生と嬉しい事ばかりの毎日。一家の主として日々がむしゃらに働いていました。その時期から早12年も経ったのだとこの原稿を作成しながら考えるきっかけとなっております。

現在は会社の責任者として日々仕事に精進しており、以前にも増して多忙を極めておる次第です。ただ、忙しい事を理由に自分を支えてくれている家族との時間等を疎かにしたくないので、一瞬一瞬の時間を大切に過ごしていきたいと思います。

5回目の年男

今治支部 宇崎 功二郎

5回目の年男を迎えました。還暦です。勤めていれば定年退職の年です。いろんな意味で節目を迎える年です。

こんなはずではなかったと体力と筋力の衰えを感じる時もありますが、まだまだ現役で頑張ります。

論語に『六十而耳順』とあります。60才の時に人の意見を素直に聞けるようになったと。未熟者の私は少しでもその域に近づけるよう努力しようと思います。

年男になって

今治支部 南條 公德

新年あけましておめでとうございます。

石丸支部長より、「年男・年女」の原稿のお話をいただき、「年男なんだ？」と実感がありませんでした。振り返るとここ数年、がむしゃらに仕事をしてきたように思います。

昨年は、10年疎遠になっていた父が亡くなりました。会うことはありませんでしたが、心の支えになっていたのです。亡くなって、やっと気づきました。

48歳の年男を迎え今後は、子供の心の支えになれるよう。父親として、社会人として、気を引き締めて行きたいと思います。

還暦を迎えて

松山支部 竹内 浩

還暦なんてまだまだ先のことだと思っていたのに、あっと言う間に来てしまった。60年の人生を振り返ってみると波乱万丈の人生だった。就職と倒産を繰り返した20代、30歳で設計事務所開設、順風満帆と思っていた。40代、構造計算偽装事件に始まりリーマンショックと仕事は激減、消費税は10%になるとの報道、自営で設計事務所を続けるのは難しいかなと思っていたところ、50歳になって再就職の話、60歳を前にやっと落ち着いた。

さあ60代ワクワク、ドキドキ、もう少し人生楽しんでみようと思う。

年男として

松山支部 村上 雅幸

私は13歳で設計士を目指し、松工の建築科卒から令和2年で72歳、建築と土木に関わり54年、80歳まで現役実行。趣味は資格チャレンジと国宝建築の見学です。

今も現役放送大学教養学部全科履修生の学生です。令和元年に終活ガイド検定認定証を取りました。職歴は浪速設計33年部長退社、大阪府地元建設業13年社長退社、年金取得後アイビー8年現役です。設計と建設業を今も楽しく仕事させていただいています。人生にチャレンジです。

追伸 奈良と京都の国宝建築の見学は終わり、愛媛は3棟だけでした。今後がんばりますよ。皆さんもお元気で。

Message to myself in the future.

伊予支部 西岡 篤臣

Do what you love.

Love what you do.

お施主様のお宅訪問でふと目に入った
壁掛けのお洒落なインテリア文字
アイアン+筆記体で見た目も去ることながら
意味を聞いたら さらにグッときた！

これからの自分へのメッセージ

自分の好きなことをやり

自分のすることを愛しなさい

できるできないはあるけれど、

このメッセージに胸昂らせ

人生3回目の年男

いざっ出陣！

年男の抱負

八幡浜支部 繁木 俊忠

西予市三瓶町で繁木建設の4代目として親の後を継ぎ、自分で設計した家を施工まで携わる大工として働いています。

今後も現状に満足することなく技術を磨き、住む人が安心して暮らせるように。安心な素材で、丈夫な木組みの家を造れる大工になっていきたいと思います。

そして、僕で4代目!! 繁木建設で造った家はきちんと自分が守れるようにしたいです。

また建築業界も職人不足で、大工だけでなく関連の業種でも若い後継者を現場でみなくなっています。建築業の魅力を伝える活動もしていきたいと考えています。

大工の仕事はお施主様が一生住み続ける家を任せて頂ける仕事で、自分が造った家がカタチになって残る、やりがいのある仕事だと考えています。

僕が子どもの頃のなりたい職業の1番は大工でした。

ある番組から法隆寺の最後の棟梁・西岡常一さんやその弟子の小川棟梁さんを知り、憧れ、大工の魅力を知りました。

僕たちが頑張ることで、大工になりたい、建築の仕事がしたい。そう思ってくれる子どもが一人でも出てきて欲しいと思います。

今は鉋削り体験の依頼も多くあり、県内各地「産業まつり」「凄いもの博」などで行っています。大工道具鉋に触れること。削ったひのき材の魅力を伝え、日本には日本の木の家が いいと感じて住んで頂きたいと思います。

年 女

西予支部 梶原 明華

新年あけましておめでとうございます。

今年の1月で36歳、3回目の年女になります。

年女を目前にした昨年は、新たな職場でスタートを切ることになったこと。念願叶い、マイホームを建てられたこと。など、いろいろと変化のある、あわただしい1年でした。それだけに、自分のことに精一杯の年だったように思います。

年女を迎える今年は、家庭・職場で、より貢献できるようにとっております。

ゆったりと

西予支部 和氣 忠孝

72才、意欲はあるが、視力の低下に悩んでいるこの頃。豪雨の年、同じ日に2匹の猫をもらってしまいました。散歩中の私と、嫁いだ娘がそれぞれに。

事務所と、我が家とで飼っています。

事務所の猫は、メスだということなので、野村の復興と福があるようにと「フク」とつけました。

車の往来の無い一軒家で、2匹の猫は放し飼い、ゆったりと仕事ができればと夢見ております。

5回目の年男

宇和島支部 豊田 恵介

東京から宇和島に帰り、構造事務所を開設してはや27年。今年還暦を迎えることとなりました。いろいろな事がありました。楽しいことも辛いこともいっぱいありました。

2年前には高血圧の診断が下りましたが、服薬せずに治そうと週に4~5回、1回に5.4kmくらい走り、毎週木曜日には空手道場（18年前に始め極真会館2段）に通い続けています。

子どもは4人。上は25歳から下は12歳。男3人と末っ子の女の子です。まだまだ天国に行く事は出来きません！ まだ10年は現役で頑張りますので宜しくお願い致します。



建築士会全国大会 「北海道大会」参加報告

総務・企画委員長 武内 邦彦

2019年9月21日(土) 函館市 函館アリーナ

第62回建築士会全国大会「北海道大会」へ参加して参りました。本会ツアーでの参加者は23名でした。また、各支部におかれましては、それぞれのプランを立案され大会の前後の日程を楽しまれたようでした。愛媛県からの参加総数は75名と遠方にも関わらず、たくさんの方に参加いただきありがとうございました。大会前日に松山を出発し、大会翌日に帰郷する3日間の旅程でしたが、北海道滞在中は非常に良い天候に恵まれまして、大会会場の運営もスムーズに出来たのではないかと思います。

会場は、「函館アリーナ」という素晴らしい会場でした。大会では各々が各セッションや記念講演などに分かれて聴講し、大会式典では集合参加する形となりました。

式典では、連合会長表彰に西条支部木村久司さん、首藤忠夫さん、松山支部大上恵子さんが受賞されました。

おめでとうございます。

大会後の大交流会では、全国から集まった旧来の友人たちと1年ぶりの交流をすることができ、大変楽しい時間を過ごすことが出来



右が大上さん

来ました。また、ケータリングで振る舞われる食事大変な人気でした。



大交流会スタート前のノンアルコール状態

さて、函館での観光ですが、羽田空港までは良いのですが、東京駅から北海道新幹線はやぶさ21号で新函館北斗駅まで、なんと4時間14分！列車で4時間は初体験でしたが、新幹線といえども北海道は遠い！北海道は日没が早いこともあり、到着後ホテルに向かう前に函館山の夜景観賞へ直行です。ちょうど夕食時間帯だったため観光者は少なめで、前述したように素晴らしい晴

天であったので夜景がほんとに綺麗に見えました(観光写真と同じです)。

夕食はホテル近くの人気居酒屋さんでしたが、すごいボリュームの食事を準備して頂きました。もちろんカニ付きです。予算の都合上「豪華」とはいきませんでした。満腹でした。大会当日の午前中にも近場を観光しました。まず大沼国定公園。遊覧ボートに乗り、これまた観光写真のような活火山の駒ヶ岳を眺め湖上を爽快に疾走しました！まだ白鳥は来ていません……。



会場前で記念写真

その後、建築士らしく函館元町で歴史的建築物の見学でウォーミングアップをして大会会場入りでした。

最終日は、早起き組は「函館朝市」へ行かれたようですが、私には様子がわかりません……。函館空港へ行くまでに、赤レンガ倉庫群で建築見学と思いきや、お土産タウンでしたのでお土産をどっさり宅配してもらうこととして、五稜郭での昼食へ向かいます。皆で何を食べようかと会議の末、カレー屋さんに入店。ここで宇和島支部さんとコンタクト！食後、展望タワーに上がって歴史のお勉強です。函館を十分に堪能して函館空港から羽田を経由して松山へ。台風17号の影響で羽田から飛ばないかも……との不安な情報もありましたが、無事に無事故で松山空港で解散することが出来ました。来年の全国大会は「広島」です。お隣ですので、もっとたくさんの方と参加できればと思います。



函館市内の居酒屋さんにて懇親会

新居浜支部 白石 公成

今年は、研修旅行を兼ねての全国大会参加ということで、新居浜からは10名で行ってきました。令和元年9月20日に松山空港から出発して羽田空港経由で新千歳空港に到着後、バスに乗って札幌に向かい、到着したのは19時頃でした。予定より遅くなったので、早速、すすきの「松尾ジンギスカン」で懇親会を始めました。

札幌ではラグビーワールドカップが開催されており、大変賑やかでした。2次会にも行きましたが、疲れていたためあまり遅くならないうちにホテルに帰りました。

9月21日
早朝ホテルを出発して、札幌にある北海道庁旧本庁舎（赤レンガ庁舎）などを見学した後、札幌駅よりJR特急で4時間



懇親会風景

かけて函館駅に着きました。そこから、タクシーで全国大会会場の函館アリーナに行き、藤本壮介氏の記念公演が聞けなかったのは残念でしたが、大会式典に参加しました。大会テーマは「Re+明日のまにに輝きを」で、様々なセッションが午前中にありました。

次期開催地は広島ということで、近いので来年も新居浜から多くの会員に参加してもらいたいと思います。

大会が終わった後の函館の夜は、夕食で海鮮料理を美味した後、タクシーで函館山に上りました。函館山からの夜景は、写真で見るよりもずっときれいでした。

9月22日は、朝食後、五稜郭歴史廻廊を散策し、五稜郭タワーに上って、高いところから五稜郭全景を見ることができました。その後、海鮮市場などでお土産を買って、函館空港に向かいました。今回札幌と函館に行きましたが、北海道は広くて2泊3日では、短か過ぎてもったいないなと感じました。

函館空港から羽田空港に到着した後、台風の影響で、松山行きの出発が遅れて心配しましたが、予定より1時間遅れで松山空港に着き安心しました。



西条支部 白川 祐司

今年の建築士会全国大会は、北海道・函館にて開催、西条支部は、研修旅行を兼ねて9月20日～23日（3泊4日）の日程で7名参加しました。

初日は青森にて、ねぶたミュージアムで、今年優勝したねぶたを見学、夕食は、津軽三味線の演奏を聴きながら青森の夜を楽しみました。翌朝は、新幹線にて、はるばる～来たぜ函館……とは唄わない。私にとっては、初めての北海道。ホテルに荷物を預けて路面電車で会場の函館アリーナへ到着、お決まりの記念撮影を済ませ会場へ。北の地なのか、参加者が若干少ない気が？ 藤本壮介氏の記念講演、公園の真ん中の、ぽつんとトイレ……所さんのTVみたいなフランスでは大きな木のような集合住宅、発想の豊さに感動。

大会式典も無事終わり、夜は函館山からの夜景を堪能、光のパノラマ芸術、嫁と来てもいいかも！



函館アリーナ会場前にて

翌22日は、まるまる函館観光。まずは函館朝市にて、海の幸と地酒の試食試飲をしながら買い物、皆さん函館名物を沢山買っていました。私も松前漬け2種類を家族サービスに。その後、竜飛岬・函館の坂道（写真に撮ると絵になる坂道は是非！）・ハリストス正教会・赤レンガ倉庫でお土産タイム・定番の白い恋人…買ってしまった。

五稜郭タワーから見る五稜郭は近代城郭で星形がとっても美しかった。最後にトラピスト修道院。夜は、新鮮な魚介料理に美味しいお酒で、気の合ったいい仲間同士の親睦も深まり、函館を堪能出来た1日でした。

翌日23日は、まさかの台風接近。午前中の予定をキャンセルして空港で待機、14時30分東京行きの搭乗手続きのアナウンスで一同安堵、無事帰る事ができました。

これもまた旅のいい思い出ができた函館大会でした。来年は広島県。また大勢の人と参加できたらいいな～。

宇和島支部 與那原 浩

建築士会全国大会「北海道大会」に宇和島支部より18名が参加致しました。全国大会前日の9月20日(金)松山空港を出発し、羽田経由で函館空港に16時、無事到着。バスでホテルに移動し、チェックインを済ませ、夕闇がせまる中、函館山夜景観光に出かけました。

ロープウェイ乗り場は、多くがアジア系のインバウンドでごった返しており、エネルギーを感じました。ロープウェイを降り、頂上の鑑賞スポットから十分に夜景を堪能した後、函館港近くの夕食会場へ移動。海鮮料理と地酒をいただき、長旅の疲れを癒すことができました。

翌21日(土)は集合時間まで自由行動で、ホテル近くの函館朝市で朝食。ワンコイン(500円)で味噌汁付の海鮮丼で腹ごしらえをして、朝市を散策しました。ガイドマップによると、約250軒の店が並び、旬の魚介類や野菜、果物、乾物などの北海道の名産品が集まっているとの事。呼子の掛け声と観光客の往来で、朝から賑わっていました。

お土産を物色し、ホテルに戻り函館観光に行くメンバーと合流して、赤レンガ倉庫群へ向かいました。函館市の伝統的建造物一覧によると、この赤レンガ倉庫は「金森洋物館」の名称で金森倉庫1号から5号までが保存計画の指定を受けています。明治42年建築で築110年が経過しています。イギリス積の重厚なレンガと平入の切妻屋根が景観を形造っています。現在は店舗やレストランとして運用され、函館の観光名所として知られています。

函館には他にも、明治から大正にかけて建築された建物が多く、保存計画の対象となっています。その代表的な建物である「函館ハリストス正教会復活聖堂」へも足を運びました。港から教会までは八幡坂を上って行きました。坂の途中で港の方を振り返ると、絵に描いたような景色が広がっていて、歩き疲れた体を癒してくれました。

八幡坂を上り切り、左折し道なりに歩いていくと、教会の門が目に入ってきました。門を抜け塔を見上げながら石段を登っていくと、庭の向こうに教会全体を確認することができました。『大正5年建築、煉瓦造平屋建て。昭和60年に国の重要文化財に指定される。2~3枚積の煉瓦壁の表面に白漆喰仕上げとした美しいビザンチン様式で、屋根は木造小屋組みの銅板貼りである。鐘楼の尖塔を含めて、6個のキューポラと十字架の付く形式は日本で唯一のものである』(函館市HPより抜粋)

教会の内部にも入らせて頂き、吹き抜けと壁に描かれ

たアイコン画が祈りの空間を際立たせていました。ちなみに教会の設計監督を担当した河村伊蔵の孫が建築家の故内井昭蔵氏であると、後日知りました。普段経験する事の無い静寂な空間体験をして、厳粛な思いを感じながら教会を後にしました。

三十間坂を下って路面電車に乗り、五稜郭に向かいました。ご存知のように五稜郭は江戸末期に蝦夷地の箱館に建造された稜堡式の城郭ですが、その設計者が伊予大洲藩出身の武田斐三郎であることを、五稜郭タワーの展示で初めて知りました。展望室からは五稜郭の全体を望むことができ、幕末の動乱に思いを馳せるとともに、平和な時代に感謝するひと時でもありました。

いよいよ集合時間が近づき、全国大会会場の函館アリーナへ向かいました。会場前での記念撮影の後、15時からの大会式典に参加し、無事に目的を果たすことが出来ました。

夕食は、食べ放題のジンギスカン料理を囲み、今回の研修や旅の思い出を語り合い、来年の広島大会へ向け、一人でも多くのメンバーが参加できるよう準備をしていくことを確認しました。

翌22日(日)は函館空港から予定通り帰路に就きましたが、台風の影響により経由地の羽田で運航に遅れが生じてしまいました。どうなるかと心配しましたが、1時間遅れで出発、無事に宇和島へ帰ることができました。

今回の全国大会は、支部として半年以上前から予約の準備をしていました。そのおかげで、18名という多くの方に参加していただくことが出来ました。

関係者の皆さんに、心より感謝致します。



大会会場での集合写真

鬼北町日吉・庄屋井谷家住宅

宇和島支部 酒井 純孝



庄屋井谷家住宅全景

高知県の県境、鬼北町日吉の下鍵山商店街から少し北に入ると広場（駐車場）に出る。

山裾の高台に畑があり、その中央の主屋の玄関に行く通路に沿って上がって行き、格子戸を潜り、さらに上がると主屋の敷地に繋がる。井谷家は藩政時代、鬼北町と日向谷の両村の庄屋を務めていて、かなり広い屋敷を所有していて掃除や維持に困る位、建物もかなり広がった。

明治24（1891）年に十代井谷左兵治正清が古心と号し、庵を結んで座禅をした下鍵山蒼玄庵に工を起し、明治26年に移築工事が完成した。現在の建物は旧庄屋の老人部屋を移した建物で、他の庄屋は立派な豪快な建物であるが、井谷家の庄屋建物は質素で一般の建物と変わりなく、桁行11.0間、梁間5.0間の規模の老人部屋建物が下鍵山の主屋として残っている。

明治24（1891）年の移築時に、井谷正命は平面計画を行い、部屋ごとに意味を持つ名前をつけた。正命は厳密な性格であった方で、土壁の荒壁、中塗り、仕上げの工程を進めて、壁仕上の塗りが乾燥した時点で柱と壁の接している所に木綿針を立ててこの針が向こう側に抜けるようなことがあれば左官職人に塗り替えを命じたようである。

主屋は、木造平屋延床面積239.20㎡（72.82坪）、伝統工法で土壁漆喰塗り、和瓦土居葺き、切り妻、礎石は川石で石場建て。軸組は江戸時代創建の建物の移転材であるので平均に大きい。

一般柱は4.6寸角、軒桁下屋下段梁は松・140×210、上段軒桁は松・130×300、陸梁は松丸太350φから400φで、2段組の部材は大きい。明治の移築から129年が経過しており、構造材の痛みや蟻害

や腐りが発生して修理をしなければいけない状態。主屋は裏山を借景にしているため湿気が多い。従って湿気対策として、古木は伐採し、敷地内には排水計画をしなければならない状態にある。



主屋南側の縁側

蔵棟は木造2階建て、和瓦葺き、切り妻、土蔵造り、延べ面積100.9㎡（30.50坪）の規模になる。土蔵造りであるが風雨に強く、後補であるが現場で表面を焼いて炭部分厚さが深く、また、板厚も厚い焼き杉を貼っている。1階の床はコンクリートとなっており、湿気が多い。従って柱脚の腐りが多く、すでに根接ぎの修理がされている。しかし長年の湿気に耐えかねて根腐りが発生し、建物が少し傾き漏水が発生していて、構造部、開口部が腐り修理を要する時期になっている。

【部屋の使い方】

正命が下鍵山に移転時に平面計画を行った際、部屋名をこだわった室名で表現している。玄関を上がると取り次の間が送迎の間【丁重】、その部屋に島崎藤村の千曲川旅情の詩の墨書を置き、蒼玄庵の掛軸が掛かる主人室【荘重】、座敷には【客】また【高尚】、奥の部屋には【静粛】、茶の間は主婦室・居室【安静】、土間には【整頓】、中庭は【清潔】と明記されていた。自然と人が接する作法と、家庭内の者には厳しく躰をして教えた様子が伺える。

裏庭に沿って隠居部屋-3が設置されているが、後補の物で茶室が設けられている。3畳の小間で縁側外につくばいを設け、西側に雪隠を設けている。雪隠は質素に作り、時代が進むにつれ便所も変化しているが、最初作られた状態に戻したい。この茶室から裏庭の池と山の木々を見ながらの茶会は、亭主としても最高の条件を備えている。春夏秋冬、時を選ばずの所。



裏庭の池の蓮の花

隠居室-1・隠居室-2・隠居室-3の現在状況においては正命の長男正吉の書斎になっており、正吉が昭和22年代に衆議員（社会党）の政治家であった時の書物と机とがそのままの状況で残っている。隠居室西に手洗いが設けられている所に筆が洗って干してある。あらゆる人に出したであろう筆の多さに驚く。たま、書物の多さにも驚く。特に海外の思想、哲学などの知識を吸収するために読まれた本の数々が、この山奥にあることに感動する。隠居室-1からは表庭があり石垣と土塀がある。土塀は通常ある塀の高さではなく地盤から70cmくらいで畳の高さに留めている。これで下鍵山の町並みがほとんど井谷家の南のどの部屋からも一望できる。庄屋であって民家の造り。また、井谷家の家族が生活するに当たっての飲料水は、北裏山を20m以上掘り、その洞窟から落ちてくる水滴をためて、生活水に使っていた物が残っていて現在も使用している。



和室にある墨書【生観】

創建当時は江戸時代から明治時代に移り、地域的によやく万民が平等になりかけた治安が安定していない時

代で、屋外の水源には万全のセキュリティーを考えた施設であり、最高の生活の確保を備えた井谷家となった。この設備が整った時点で、後補になるが、東面の浴室、便所ができた。浴室の床と腰壁は当時珍しい75角タイル、その上の壁と天井は桧板貼り。天井に切り抜きをした換気口を設けていた。銭湯に行く時代に斬新なお風呂だった。また隣部屋には洗面化粧室（洗濯機を備えられる）が設置されて、洋式の便器、その横には男性の便器が設置されていた。床は湿気の多い場所は桧板貼りで壁は土佐漆喰仕上げ。開口部の窓はあらゆる所から採光と換気ができ、斬新な造り。

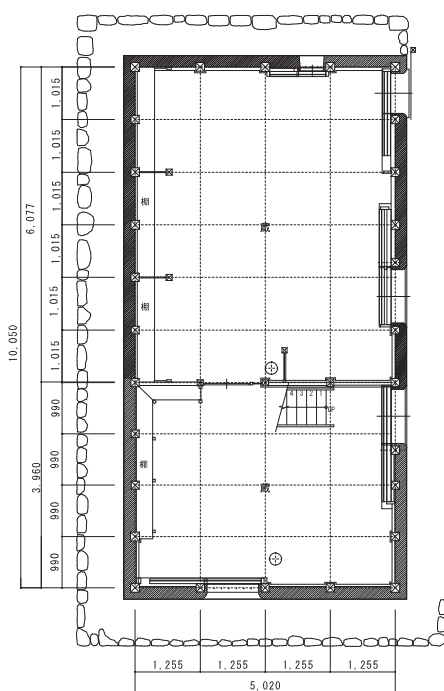
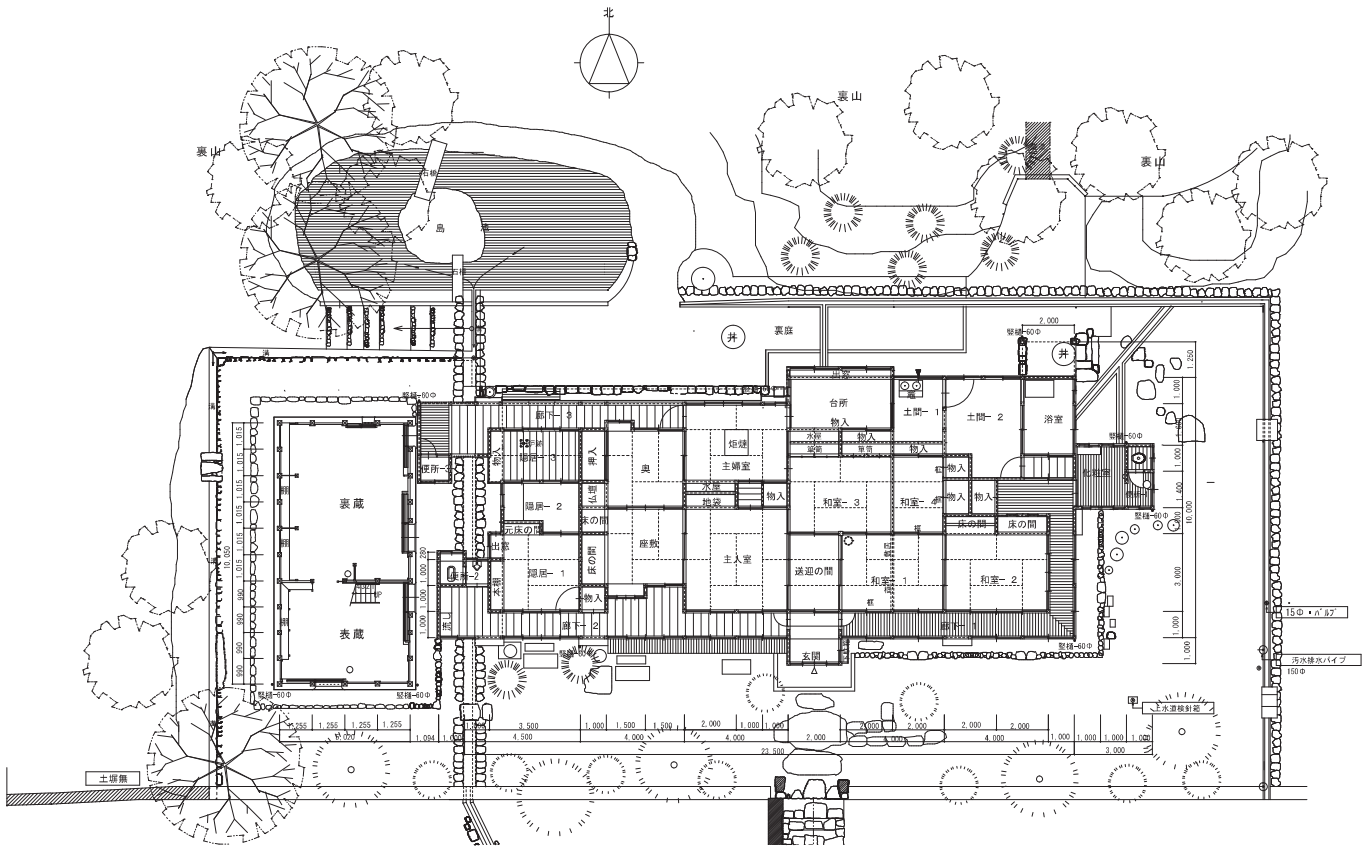


隠居室-1

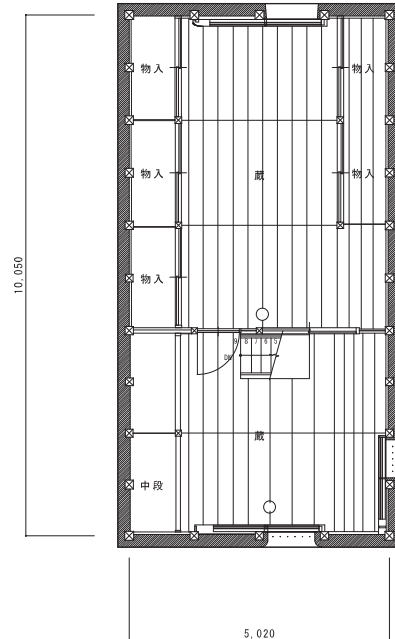
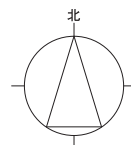
住居部は自由な発想で、創建時代を過ぎて自宅に浴室がない時代に近代的な設備を備えた住宅であった。伊達家吉田藩の庄屋を務めた住宅とは思えない質素な哲学のある建物で、長く後世に残したい。



北東から見た屋根風景

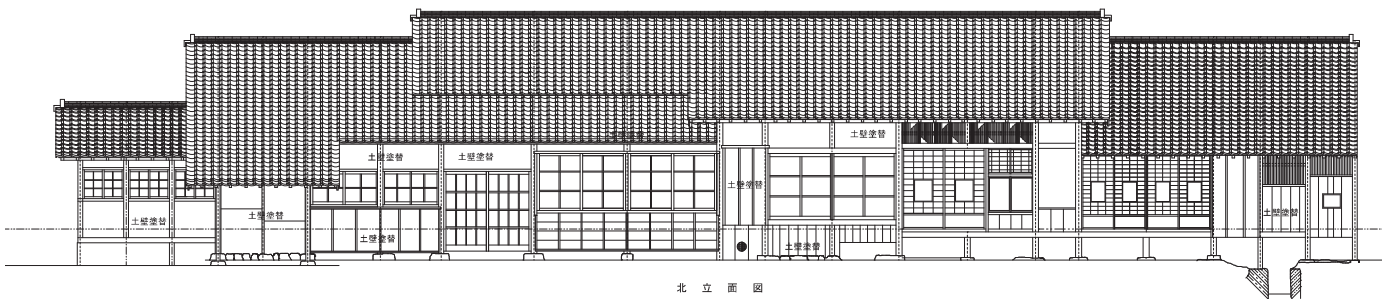
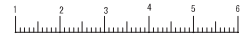
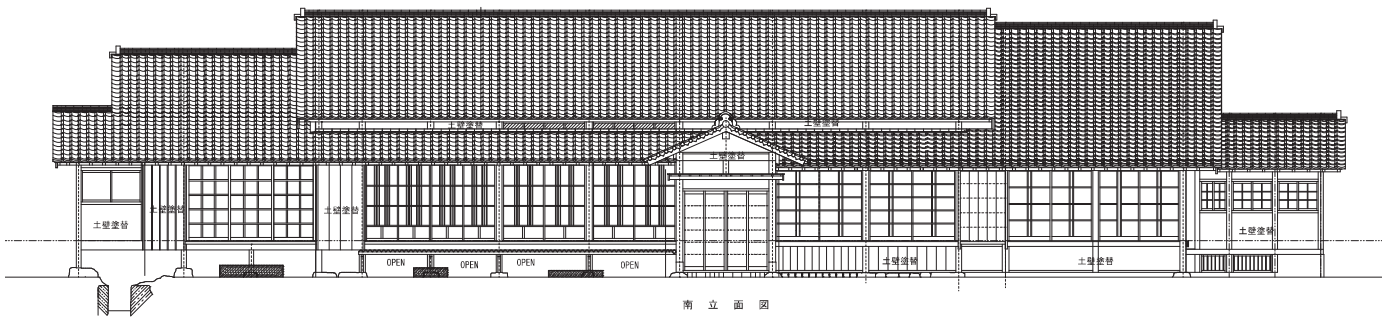


1階平面図



2階平面図





日暮別邸記念館～ 新居浜、住友営繕部のこと

松山支部 安藤 雅人



日暮別邸記念館

ずっと憧れていたが、建設地の四阪島が立ち入り禁止の為に見学できなかった日暮別邸が、島から新居浜市内に移築され、約1年前に記念館がオープンしました。勿論、直ぐに訪問したのですが、今回、開館1周年記念事業として、「野口孫一と日暮別邸展」が開催されたので、久しぶりに再訪しました。

皆さんがご存知のとおり、野口孫一は、住友（臨時）営繕部、現在の日建設計の初期における代表的な建築家で、大阪の中之島図書館等を設計しています。今回は、小品ながら、野口による風景の水彩スケッチや、西洋建築の装飾等を学ぶ為に写真をトレースして陰影を付けた絵も展示していました。小さな絵の方が、返って、彼の建築に対する世界観が現われて、日暮別邸の設計との繋がりが良く分かりました。



住友工場群と四阪島

記念館のある丘の頂上に展望所が設けられ、北には、工場群の向こうに、住友別子銅山の精錬所跡であり、かつて日暮別邸が建っていた四阪島を臨むことができます。南には、西赤石山の頂上と、その西隣で馬の背状に少し低くなった場所で、銅鉱石を運ぶ主要なルートであった銅山越えを臨むことができます。快晴の日を訪れ



西赤石山と銅山越え

たので、いずれもくっきりと見えました。別子銅山は閉山になって久しいですが、東平等の鉱山の遺構や、アケボノツツジ、ツガザクラ、アカモノの高原植物の群生地があり、別子の山々は、現在も、人々を魅了する宝の山です。記念館の近くには、イオンモール新居浜があり、「らう麺純」という、とても美味しいラーメン屋さんもあるので、家族連れで訪れるのもお勧めします。

新居浜には、他にも素晴らしい場所が沢山あります。例えば、初代住友総理人であった広瀬幸平の邸宅跡があり、桜が美しい広瀬公園や、銀杏の紅葉が美しい瑞応寺。これらと、日暮別邸記念館の間は、鉱山鉄道の軌道跡を利用したサイクリングロードで結ばれています。また、市の東部にも魅力的な場所があります。村上水軍の始祖である村上義弘の生誕地の新居大島には、スイス人のジャックさんの牧場やパン屋があったり、イベント時には、特産の白芋を食べたりすることもできます。大島の対岸にあたる荷内の海岸沿いには、「みんなのコーヒー」という、コーヒーとチョコレートケーキが美味しくて、美しいハーブガーデンと可愛い建物で居心地の良いカフェもあります。また、八幡神社の裏手には、住友の福利厚生施設を、新居浜支部の鴻上八大さんの設計で改修した、海濱倶楽部善というイタリアンレストランもあります。

話を戻しますが、新居浜市内だけで、日建設計の過去から現在に至る優れた建築物を見学することができます。古くは日暮別邸から、色褪せない建築に与えられる日本建築家協会25年賞を受賞した、躑躅が植えられた段状のテラスが印象的な別子銅山記念館、銅板葺きのドームで、明るく快適な別子銅山記念図書館、美術館や劇場といった複合的な用途を融合させた、あかがねミュージアム等、当時の設計思想を感じることができて、我々が建築の設計を考える上でも、とても参考になります。

第10回建築甲子園審査報告

建築甲子園委員会 副委員長 大野 順作

審査会開催日：令和元年10月15日

早いもので2009年に始まった建築甲子園は今年で10年目の節目を迎えました。例年、県内の建築科を有する高校から作品を応募していただき、愛媛県代表の予選選抜審査が行われることに感謝しております。本年は松山工業高校と聖稜高校の2作品の応募がありました。

自由な条件設定の評価

作品課題は建築甲子園のテーマである「地域の暮らし」の主題は変わらないものの、本年はサブテーマとして「これからの地区センター」という、地域コミュニティの核となる施設の提案を求められました。敷地や建物に関して具体的な条件提示があった昨年までと異なり、今年は建物をとりまく条件設定に大きな縛りがなく、地域の背景や歴史の設定、さらに新築、増改築、建替え、リノベーション等の選択も幅広く応募者に委ねられました。したがって審査するにあたり、建築の評価に加え、生徒たちが設定した地域との関わりをどう評価するかという点が、選抜審査の重要なポイントとなりました。

各作品の図面画像と評価は以下のとおりです。



上：LE CORBUSIER と創った地区センター（松山工業高校）

下：自然と共に生きる地区センター（聖稜高校）

LE CORBUSIERと創った地区センターは、巨匠ル・コルビジェの建築デザインを踏襲し、堂々と表現した建築はコルビジェへの敬意に溢れ、その潔さが新鮮であり魅力的な作品です。しかしながら、図書館を併設した多目的施設の新築は、建築場所の背景や建築プログラムの設定に地域性が見えず、建築のみが独り歩きしている感が強すぎて、高評価には至りませんでした。

自然と共に生きる地区センターは、しまなみ海道の麓の島に瀬戸内のシンボルである「村上水軍と今治市章」をデザインのモチーフとしたスポーツ施設と図書館をメインとした複合建築の計画で、地域との関わりが感じられる作品でした。建築意匠についても、橋からの俯瞰を意識した屋根デザインと地場特産の石を大胆に大屋根に使うなども高評価でした。ただし、せっかくの大屋根のデザインがスポーツ施設の内部空間に生かされていない点や、図面も説明文字の大きさが目立ち、表現力が乏しいとの指摘もありました。審査結果としては 以上の2作品を総合的に検討した結果、地域とのつながりや地域とのゆかりをデザインに生かした点が高く評価されての選抜作品となりました。

10年目の勝利

過去すべての審査にかかわってきた私としては、ようやく愛媛県予選も「建築甲子園」らしさを見せ始めたと感じております。というのも、過去9回の選抜高校はすべて松山工業高校の独り勝ちでしたが、本年は10回目にして初めて聖稜高校の作品が選ばれたのです。過去には松工と聖稜両校の僅差での競り合いもありました。その年の予選審査会では圧勝かと思えた聖稜高校の作品に、致命的な不適合が見つかったのです。もしこの作品が選抜されていれば全国大会でもかなり上位の成績を残していたのではとの予感と、思いを聖稜高校の先生と生徒に伝えた事もありました。その時の反省と悔しい経験が今回の初選出につながったのではとも感じています。



審査会風景

令和元年 二級建築士 設計製図試験 受験者のための参考事例見学会

委員会報告

6

青年委員会 近藤 岳志

8月10日(土)に令和元年二級建築士試験設計製図試験受験者対象の参考事例見学会を開催しました。

この見学会は、二級建築士を目指す受験生を対象に、課題のテーマである「夫婦で営む建築設計事務所を併設した住宅(木造2階建て)」に関わる建築物を見学し、学習の理解をより深めて頂くことを目的としています。また、建築士試験に合格した建築士会メンバーが解説、サポートすることにより、建築士会入会のきっかけになればと開催いたしました。

今回の課題そのままの条件が、弊社の㈱ATKdesignの事務所ということもあり、午前中に見学しました。特徴は、住宅と事務所の入り口がそれぞれ存在し、アプローチは共用していることです。



事務所の入り口と住宅の入り口がそれぞれある事務所の解説

事務所の入り口から、打合せ室、執務室等の動線、打合せ室の大きさ、執務室の大きさ、書類の収納の必要量等、本試験に出そうなポイントを解説しました。事務所のファサードは、事務所のデザインの方向性を見てもらう良い機会になるので、立面図での表現も重要ということをお伝えしました。



執務室の広さと、書類の収納量についての解説

昔は、平行定規を使って、手書きで図面を描いていましたが、現在はパソコンによるCADでの作図が中心に

なっています。作業スペースや、保管する図面の量等、時代の変化と共に変化しているのが実情です。

その後、午後からイシマルデザインの岸絹子さんの事務所兼住宅にお邪魔しました。

岸さんの事務所の特徴は、2階建てではなく、平屋で、事務所と住宅の入り口が共用されていて、アプローチも共用しているところです。



事務所部分の打合せスペース

事務所部分では、打合せスペースと、執務スペースが別々に仕切られた空間ではなく、壁1枚でゆるやかにつながっていて、全体として広がりのある空間でした。



ショールームも兼ねている大きなLDK

プライベートな部分である住宅部分も、細かく見せて頂けました。リビング部分は天井が高く、LDKが1室としてつながっている開放的なプランでした。

見学会に参加して頂いた方から、「とても参考になった」「図面では理解出来なかったことが、実際に見るとよく理解できた」等のご意見を頂き、来年度も継続して開催出来ればと思っています。

最後にイシマルデザインの岸絹子さま、この施設見学会にご参加頂いた受験生のみなさま、見学会にご協力頂きましたみなさま、ありがとうございました。受験生のみなさまの合格と建築士会入会を心より願っております。

支部対抗 ソフトバレーボール大会報告

開催日：11月9日(土)
会 場：丹原体育館（西条市）
参加者：72名

優勝報告

令和初のソフトバレーボール大会が、西条市丹原町の丹原体育館で開催されました。

今年は昨年より2チーム少ない10チームで5チームずつ2ブロックに分かれて予選リーグを戦いました。

この日は私用で開会式に間に合わず、1時間近く遅れての参加となりました。会場を見渡せば、若者や女性選手が増える中、いつもと変わらぬメンバーで登場です。

初戦は松山Aさんです、若い女性が多いチームで軽く勝てると思ったのですが、それは大間違いだとすぐに気づきました。よく拾い、アタック攻撃してくるまとまったチームでしたが、苦戦しながらなんとか勝利をあげました。次は混合チームさんです、相手方は10点取ることを目標に戦ってきたのでやりにくかったですが、10点を献上したものの、それ以上にこちらも得点して勝ちました。

その後、松山Cさんに勝って、今日一番楽しみにしている昼食です、秋晴れのもと、皆で美味しいお弁当をいただきました。午後から宇和島さんに勝利し、予選リーグ全勝で決勝を迎えました。相手は昨年の決勝で大差で敗れた四国中央さんです。序盤は点の取り合いで一進一退の攻防でしたが、中盤にかけてジワリと差がついてコートチェンジしたころには5、6点負けていました。その後、ブロックポイントもあり反撃開始です、西条Bチームの心強い応援もあり、終盤追いつけ追い越せで同点、1点差、2点差でタイムアップ、2年ぶりに優勝旗を手に入れました。

当日夜の打ち上げに参加し、美酒を腹いっぱいいただき、来年もこの一杯のために1年間練習に励むことを誓いました。

最後に、初戦から決勝戦まで観戦・応援してくださった赤根会長はじめ、青年部役員の皆様、大変お世話になりました。ご参加の各支部の皆様お疲れ様でした。

西条支部 Aチーム代表 河上 正也



準優勝 四国中央チーム



3位 松山Aチーム



4位 西条Bチーム



5位 伊予チーム



優勝 西条Aチーム

松山支部 Bチーム代表 渡邊 道彦

最下位

実に僅差で苦杯をなめた、悔やまれる思いの残った大会でした。恒例ですので、今年度のソフトバレー大会の最下位チームを代表して、大会のご報告をさせていただきたいと思えます。

今年度は、ヘリテージ開催日と重なり、ソフトバレーへの参加を断念された方も多いかと思われましたが、例年より参加チームが少ない分、コンパクトな密度の濃い大会だったように思います。コンパクトとは言っても、試合回数も各チームとも5回と多く設定していただいていたので、早々に敗退して解散されるチームもなく、かえって充実した、多くの皆さんが盛り上がった大会だったのではないのでしょうか。

我がチームの戦績については、結果的には1勝しか出来ませんでしたが、その1勝こそが、強豪チームに名を連ねる伊予支部さんに土をつけた大黒星のジャイアントキリングでした。勝負事は、やってみないとわからないものですね。その大番狂わせがあったおかげで、我がリーグは1勝3敗チームが3チーム並ぶ大混戦となり、総得失点差の1点に泣いてリーグ最下位という、まさに僅差での敗北でした。

そのショックを引きつりながら臨んだ、順位決定戦にても、いつも練習を共にしている松山支部Cチームに、1点差の敗北。手の内を知り尽くされている、大会最年長の前チームメートからの技ありの得点にて、試合終了の笛を聞くことになりました。

試合の途中頃から調子が上向き、「ひょっとしていけるかも」と言うおごりが結果に出たのか？ その差は何だったのでしょうか？

自分に問いかけても、明解な答えがでるわけでもなく、やはりサッカー日本代表が、ベルギーに敗れた時のように、試合運び等の経験を含めての、勝者のメンタリティの差だったのでしょうか？

この年齢となっても、もっと上を目指したいという向上心を奮い立たせてくれる魅力が、このソフトバレーにはあると思います。人間としても成長させてくれる、ソフトバレーをこれからも愛し続けていきたいと思えます。

最後になりましたが、大会運営にご尽力下さった皆様に感謝申し上げます。



6位 新居浜・今治混合チーム



8位 西予チーム



10位 松山Bチーム



会長あいさつ



7位 宇和島チームチーム



9位 松山Cチーム

女性委員会主催 東予見学会 in 新居浜

女性委員会 叶 貴美

日 時：令和元年11月2日(土) 10:00~17:00
人 数：会員7名 一般2名(子供含む) 合計9名



爽やかな秋晴れの朝、あかがねミュージアムより見学が始まりました。スタッフの方の分かりやすい館内説明や、あかがねミュージアムの設計について、スタッフ目線のご意見などお聞き出来て楽しかったです。にいはまギャラリーシアタールームでは、360度の映像と迫力のある音で新居浜太鼓祭りを楽しめます。



お待ちかねのランチタイムのあと、訪れたのは旧広瀬邸と広瀬歴史記念館です。旧広瀬邸は、明治10年に建築されたものを明治20年に移築、その後座敷と庭園が建築・造園されています。

ガイドさんの説明がとてもわかりやすく勉強になりました。庭園も素晴らしく、当日はライブが行われていました。2階に上がると新居浜を一望できる景色です。伝統的な日本建築様式の顔を持ちながら、開国により西洋からの影響を受けている感じが見事に調和しています。

母屋の屋根上には風見鶏のようなものがあり気になっていましたが、避雷針と分かりました。平成15年に国の重要文化財に指定されています。



玄関から真正面にある料理場もとても広く、驚きました。ここからご馳走がお座敷に運ばれ、立派な床の間と内庭を眺めながら様々な来賓の方々がおもてなしをされたのでしょうか。現在の住まいではなかなか見ることのできない贅沢な空間です。



最終目的地の日暮別邸記念館の前で記念撮影

ちょうど移築から1年。館長さんにご説明をいただきました。日暮別邸は、明治39年に四阪島の製錬所を見通せる高台に建設され、煙害克服のため本質的解決を追求し続けた先人たちの強い関心の現われであったと言われています。個人的につい最近、坊ちゃん劇場で瀬戸内工進曲を観たばかりだったので、とても興味深かったです。気になっていた外壁のピンクの意味ですが、四阪島に建っていた頃、何度かお色直しが繰り返されて最後の下見板の色が、今のピンク色だったそうです。日が暮れるまで、煙の様子などを窓から観察していたということです。

松山支部主催 ボウリング大会

開催日：令和元年10月26日（土）

会場：キスケボウル

参加者：26名

北地区 成松 弘之助

東地区 菅野 林次

優勝報告

建築士会松山支部地区対抗ボウリング大会と親睦会に今回、地区長の渡邊さんからの誘いで初めて参加をさせていただきました。今回のボウリング大会は参加者26名で8レーンに分かれての競技となりました。

成績の結果は後の親睦会での発表で知り、同じレーンの皆さんも飛び賞を含めて全員が賞を頂きました。他の大会を含めても初めての優勝となりました。

地区対抗は道後地区の優勝となり、我が東地区の成績は……?位、今年の新年に開催された時のいしづちの記事には2回に1回は最下位の記事があったようですが……（汗）。

そして、ボウリング終了直後、近くの懇親会場に移動し懇親会が開かれました。同じ建築士会のメンバーでありながら、ほとんどの方とはあまり面識はなかったのですが、席の近くの方と談笑しながら、親睦を深めました。話の中身は体のことや薬の話が主でしたが……（笑）。懇親会場で各表彰があり、優勝賞品として新米コシヒカリを頂きました。

最後に、今回のボウリング大会を始めとする各行事において、お世話頂いた支部長及び各地区の代表の方、各支部のメンバーの方にも感謝いたします。楽しい時間を過ごすことが出来、次回以降も出来る限り参加させていただきたいと思っています。

本当にお世話になりました。



試合開始前に集合写真

最下位

この度、ボウリング大会で最下位を獲得しました。

まず読者のみなさまにお伝えしたいのは、私は決して最下位を狙っていたわけではありません。手を抜いた訳でもなく、体調が悪かった訳でもありません。むしろ絶好調でした。

ボウリング大会が行われた10月26日は、列島を興奮の渦に巻き込んだ、ラグビーワールドカップ2019日本大会の準決勝、第1試合が行われた日でした。もしかしたらボウリング開始直前に始まった、オールブラックスVSイングランドの試合が気になって、集中出来なかったのかも知れません。

または、翌日に行われる準決勝の第2試合を横浜で観戦することが待ちきれなく、浮足だっていたのかも知れません。

言い訳がましい自慢話をしましたが、結果は残念なことになりました……。しかも最下位なのに当日賞まで頂



ラグビーワールドカップ観戦の様子

き、嬉しいやら、恥ずかしいやら複雑な心境です（泣）。

今回のボウリング大会に向けては、我ら北地区が幹事となり準備を進めてきました。賞品の準備やトロフィーの選定、参加者が親睦を深めやすい組分け方法や懇親会場の予約などを決めました。地区長の水口さんをチームキャプテンに、北地区のメンバーがミーティングを重ねワンチームとなって準備してきました。本当にお疲れ様でした。微力ながらメンバーに参加できてとても楽しかったです。

来年度はラグビーワールドカップが行われないので、リベンジを果たしたいと思います。

東温市横河原区自主防災会 「建築士による防災講座」

松山支部 東地区 渡邊 道彦

開催日：令和元年11月17日(日)
会場：横河原区集会所
参加者：一般 約30名、支部会員 17名

「皆さんは必ずセットするときに必ず確認してくださいね。」事件は、トイレの吸水実験の時に起こりました。

会場の参加者にお手伝いいただき、仮設トイレに見立てたビニール袋に、水を投入してもらった途端に、水が漏れ、あたりを水浸しにしてしまったのでした。

実は、用意したビニール袋に穴が開いていたという失態でした。苦し紛れに出た言葉が、フォローになっていたかどうかは定かではありませんが、会場の皆さんからの笑い声で、少しは救われました。事前に準備してきた事が危うく台無しになるところでした。

備品のチェックをする余裕すらなかった状況を作ってしまった、私のスケジュール管理ミスだったことは間違いありませんでした。

11月17日(日)、東温市横河原区集会所において、約30名ほどの一般の方を対象に以前からご報告しておりました「建築士による木造住宅の耐震化を推進する会」による倒壊模型による防災講座を開催させていただきました。

この「いしづち」を通じて我々の活動に興味を持たれた、横河原区自主防災会事務局に就かれていた建築士会の会員さんの相談から、今回の開催に至った経緯がありました。

今回は東温市での開催でありましたので、愛媛県建築指導課の小沢係長様に、補助金のご説明にご協力いただき、『守ろう命・耐震化!』のパフォーマンスも、しっかりとご披露いただきました。講座内容については、前回、報告させていただきました今在家での講座に準じましたので割愛させていただきます。

あいにく当日は、東温市全体の「防災の日」と重なってしまったこともあって、一般の方の参加が予想を大きく下回ってしまったり、スタッフとして参加予定だった東地区のメンバーも急きょ参加出来なくなった事情もありましたが、それは大きな問題ではなく、担当者の誰かが欠けても、他のメンバーで補いながら、いつも通りの講座が実施できるようにとのテーマで臨んだ今回の講座でした。私以外のメンバーによるパフォーマンスは、回を重ねるごとに見事に完成度が上がっており、実に頼りになる存在であることが実感できたものの、肝心の取り纏めの私の段取りが、大いなる反省点でした。

余談にはなりますが、これまで防災講座を重ねてきた経験で得た事として、十分練られた説明内容は基本とし

た上で、とっさに出た所見や、参加者からの生の声を反映させた内容が参加者にひびいているような実感があります(写真参照)。

逆に、どこかからのコピーの内容は、聞いてる方も語る方も、何が言いたいのか? が伝わり難いように感じます。例えば、「耐震率」

という言葉をつい使いがちになりますが、一般的には、耐震化をしなければならない建物のうち、どれだけの数の建物が耐震化されているかを示すイメージに受け止められるはずですが、国交省の示す内容では、木造住宅全体に占める耐震化済物件の割合なので、老朽化の為、おのずと古い建物の数は減り、新耐震基準でどんどん住宅は増え続けているため、例え1軒も旧耐震住宅の中で、耐震化された建物が無かったとしても「耐震化率」は上がってしまう不可解な言葉なので、人々に誤解を与えかねない事を認識したうえで、慎重に引用いただく事をお勧めします。

うれしいご報告として「略・建耐進」は、建築士会松山支部の南地区の有志から発足した任意団体ですが、これまでの活動がメディア等を通じ認知されつつあり、今後の活動のステージを広げるために、支部の活動にと移行していただける提案を、現在、働きかけていただいております。

今までは任意団体としての活動ではありましたが、建築士会としての活動と混同すべきではないとの見解もありましたが、これからは胸を張って活動出来る事に、喜びを感じております。

多くの皆さんにもご協力いただいて実を結んだ活動なので、皆さんへの感謝の意を込めて「いしづち」の場をお借りして、ご報告させていただきました。

急な呼びかけにもかかわらず、17名の支部会員の方にご協力いただき、不十分な準備にもかかわらず無事開催することが出来ましたこと、感謝申し上げます。



焚き火をしながら思うこと

今治支部 曾我部 準

今治支部の青年委員長、重松憲太郎さんからバトンを受け取りました曾我部です。しばしのお付き合いの程、よろしくをお願いします。

このところYouTubeのヒロシキャンプにはまっています。アウトドアいいですよ。焚き火なんか大好きです。冬の趣味は焚き火といってもいいかもしれません。揺れる炎を眺めてるだけで癒されますよね。アブない人じゃないですよ。わかってくれる人いますかね？

もう一つの趣味がロードバイクなんですが、寒くなってくると自転車はキツくなります。そうすると焚き火のシーズンです。どっかに出かけて行って焚き火をしたいのはヤマヤマなんですが、なかなか時間が取れないし、どこばりで火を焚くと通報されます。だもんで自宅の庭でロケットストーブで焚き火を楽しんでいます。コイツは非常に燃焼効率がいいもので、うまく燃やすと灰すら残らないほどキレイに燃えてくれます。

実際焚き火といっても単純に木を燃やしたのでは1次燃焼しか行われずに煙が出て、いわゆる焚き火の匂いになるのですが、コレが結構な困りもので街中では「匂い」というよりも「臭い」になってしまいます。原因は煙に含まれる揮発性成分。実はコレまだ燃やせるんですね。ロケットストーブでは煙突状のヒートライザの中で2次燃焼が起きることでこの揮発性成分も燃やし尽くされてキレイな排気になるんですね。これで街中で木を燃やしても大丈夫。週末はもっぱら自宅の庭でロケットストーブで木っ端を燃やしてみたりキャンプ飯を作ってみたりして手軽に楽しんでいます。

また一昨年から自宅事務所の暖房をエアコンから石油ストーブにしました。見た目はまさに「昭和」ですが、メチャクチャ暖かいです。通常は鍋に湯を沸かして事務所内を加湿しています。そのせいかどうかは定かではありませんが昨シーズンはインフルエンザに罹りませんでした。時には焼き芋を作ります。鍋に砂利、その中にアルミホイルで包んだサツマイモを入れて2時間。焼き芋の甘い匂いがしてきたら出来上がりです。イモの銘柄は「紅はるか」がオススメです。

自宅自体は電化住宅なのでキッチンで火を使うことは無いのですが、家族で鍋をつつくときはテーブルの上でカセットコンロを使っています。そういえば自宅を建てる時に薪ストーブをどこに置かで頭を悩ませたのを思い出しました。諸般の理由で薪ストーブは断念したのですが、こんな感じで生活の中に火を取り入れるのが自分としてはバランスが取れたところなのかなと思っています。

なんだかんだいっても火は便利なんですよ。危ない面も手間がかかる面もありますが、使い方さえ間違えな

ければ、ちょっと建築的なにおいがしてきましたね。自宅は子供が生まれたのを期に2011年に1年かけて建て替えました。建築の道を選んだのは「自分の家は自分で作りたい」と思ったのが発端。高校時代の私は椎名誠を読破して、「怪しい探検隊」が好きでラジオから聞こえてくる椎名誠の口調をマネしたりして、愛読雑誌は当然のようにBe-PALでした。

大学に熊本を選んだのもカヌーイストの野田知佑さんが熊本の菊水出身でその親友の石原新という人が運営していたログハウスの菊水丸太村に行ってみようというのが動機でした。当時の私の自宅のイメージはログハウスで、やはりというかなんというか子供のころに波止浜公園の山の中に作った秘密基地の延長のようなものでした。雑誌に出てくる丸太小屋にあこがれて自分の秘密基地を作ろうと色々絵をかいたりしていました。

今にして思うと平面計画らしきことをやろうとしていたようです。そんな中でどうしてもうまくいかないのが階段の位置。素人の悲しさですね。1階と2階の整合性が取れません。どうすべえかと明屋書店の住宅コーナーで参考になる雑誌を物色中に出会ったのが新建築の表紙にあった安藤忠雄の水の教会。ログハウスしか眼中になかった自分には衝撃的で「こんな建物もあるんや…」と。「こんな建物の世界があるのならログハウスだけにこだわるのはもったいない。この世界を勉強してみるのもいいのでは？」と考えて建築の門を叩いた次第です。

で、あれから25年。紆余曲折ありましたがなんとか自宅を自分で設計して自分で職人を手配して完成にこぎつけました。「自分で」とは言ってもそれが出来たのは25年の紆余曲折の中で知り合った地元の先輩方や職人さん、友人の手助けがあったからであって、その点、大いに感謝するとともに人の出逢いの機微を感じています。さて、そんなこんなで当初の夢をかなえてしまった私。これからは今までに培ってきたスキルを世のため人のために生かしていこうと思っていると、あら不思議、なんだか仕事が忙しくなってきました。人生わからないものですね。

さあ、つらつらとどーでもいい駄文を書き連ねてきま



したが、紙面が終わりに近づいてきたようです。重松さんから受け取ったバトン、次は松山支部の宮田勝広さんに託したいと思えます。宮田さん、よろしくお祈りしま〜す。

昭和から令和、その間の話

松山支部 大塚 美由紀

とうとう回ってきました「けんちくの輪」。

松山支部や女性委員会の活動報告の原稿をよく書かせてもらっていたので、何度か回ってきたバトンのお話しをかわしてきたのですが、女性委員長も交代して最近では原稿を書いてない事に気づいた人がいたようです。

活動報告とは違ってテーマが決まっていなくて、何を書いてよいのか困っているうちに締め切りの朝です。覚悟を決めて少し自分の事を書いてみます。

私は半世紀ほど前に伊予市（郡中）で生まれ、兄一人、弟二人という男ばかりの兄弟の中でたくましく育ち、中学時代はソフトボール部の主将を務め、唯一の娘には看護婦さんか保母さんになって欲しいと願う両親の気持ちを知りながら、松山工業高校の建築科に進学しました。

なぜ、建築だったのか？ 私が子供の頃、田んぼばかりだった近所に新しい家や店舗、事務所などが次々建っていきました。その工程を見ているのが好きだった事。基礎しか出来ていない現場で、ここは何の部屋だろう？と想像するのが好きだった事。リカちゃん人形よりリカちゃんハウスを欲しがっていた事。広告の裏に家の間取りを書いて遊んでいた事。笑えるほど建築好き過ぎです。子供の頃は、大工さんが建物を作る。大工さんは男の人になるものだと思っていたので、なんとなく両親の望み通り、看護婦さんか保母さんになろうかと思っていたのですが、中学生になって建築士という職業の存在、工業高校に女子も進学出来る事を知り、私の人生は変わったのです（大袈裟でした）。

私が入学した時の松山工業高校建築科は2クラス80人、うち女子は10人でした。男兄弟の中で育った私には、あまり違和感も無く、不自由も感じない環境でした。担任の神山先生、篠森先生ともに年齢が近く（今も一緒に飲みに行きます）楽しく3年間を過ごしました。あまり勉強した記憶はありません。（笑）

その後、卒業して設計事務所に就職してから10年間の記憶もほとんど残っていません。あまりにもブラック過ぎて思い出したくないというのがありますが、毎日深夜までの残業、3週間休み無し。そして、ほとんど残業代無し。そんな仕事、なぜ辞めなかったのだろうか？とありますが、今思えばその10年間があったから20代で独立する事が出来たのかもしれない。

そんな私が建築士会に入会したのは、昭和最後の年でした。事務所の方針で二級建築士は独学で取らなければならず、同級生達が日建学院に通うのを横目でみながら、受験の申し込みに行った事務局で、建築士会が行っている受験用講習会のチラシを目にしました。受講するには建築士会に準会員として入会する必要があったのです。

お陰さまで、無事に合格して正会員になった後は、幽

霊会員で何年もいました。ブラックな毎日を過ごす身には建築士会の活動に参加する時間も（退会届を出す時間も）無かったです。

その後、事務所の廃業を契機に独立して時間の余裕が出来た頃、女性委員会の集まりに声を掛けて頂き、情報や繋がりを求めて建築士会の活動に参加するようになりました。その結果、女性委員長まで務める事に。

平成の20年間ほど、建築士会を通して様々な体験をしました。中四国ブロック大会への参加は、来年の愛媛大会で3周目に入ります。全建女へは15回、全国大会へも12回参加しました。各地に知り合いも増えました。

少人数のこじんまりした集まりが好きだったはずが、なぜか色々な役目に挑戦しました。何かを頼まれた時、出来ない理由を並べるのは簡単だけど、どうすれば自分にも出来るか？を考えるようになりました。それが自分の首を絞めている事もたまにあります。

昭和最後の年に建築士会に入会した私が、令和最初の年に「けんちくの輪」の原稿を書くのも何かの縁だと思います。これからも良い縁が繋がる事を願いながら、次回は松山工業高校の先輩で、松山支部の活動でもいつもお世話になっている山内知照さんをお願いしました。よろしくお祈りします。



バトンを渡してきた八束さんと（新規登録者セミナーで新規会員の勧誘中）

最後に少しだけPRを。私が女性委員長をしていた時、（公社）日本建築士会連合会の女性委員会の活動で、「魅力ある和の空間ガイドブックWEB版」を作成しました。各県から推薦された「和を感じる建物や空間」が紹介されています。WEB版ですので、インターネット上でしか見ることが出来ません。愛媛県からも文化財・まちづくり委員会の協力を得て3件紹介しています。

是非一度、見てください。日本建築士会連合会のホームページからすぐ見つかります。

<http://www.kenchikushikai.or.jp/torikumi/jyosei-iinkai/guidebook.html>

あなたの原稿をお待ちしています。

公益社団法人として、広く異業種や全ての皆様から建築士会の枠を超えて原稿を広く募集して広く購買して頂くようにしています。是非、寄稿して頂きますようお願い致します。本年度は年6回発行となります。
(尚、営業的色彩の濃いものにつきましては、掲載されない場合もありますので、ご了承ください。)

「いしづち」の本年度の原稿締切日

令和2年 3月号 (133号) 令和2年1月23日(木)

※校正印刷の関係で締切延長の最終期限は一週間後の木曜日とします。

※1ページ写真込みで2150文字 (25文字×43行×横2段) のWORD様式を事務局で用意していますので
ご活用ください。

写真は1ページ当たり3枚程度まで題名を付けて添付してください。

また宜しければ投稿者の写真 (免許写真程度の顔写真) を添付してください。

会員の皆様のご参加をお待ちしております。また記事等についてのご意見・ご感想もお寄せください。

(尚、投稿された原稿につきましては、要旨を変えない程度の若干の訂正等を加えることがあるかもしれませんので、予めご了承ください。)

この誌面を通じて、会員の方々、そして一般の方々にまで、建築についての対話等の輪が広がれば、と願っています。
情報・広報委員会

読者の声欄

「いしづち」に関するご意見・ご提案などをお寄せください。お待ちしております。

「いしづち」編集委員会 (士会事務局内) 宛
FAX 089-948-0061

編集後記

編集後記では、情報・広報委員会で議論している内容を掲載していこうと考えています。

今の一番議論をしている内容は予算についてです。

「いしづち」により良い記事を掲載するため、いろんな方への取材に行き、皆さんに紹介したいと思っているのですが、現在はそのような予算を取ってもいけませんし、予算が厳しい予算を貰うことは難しいと考えています。

そこで、自分たちで建築士会の収入を増やすため、広告料を頂くための営業をしたらどうかと議論が沸き上がりました。自分たちの予算は自分たちで稼ぐという考え方です。

そこで注目したのが、1500人の会員に皆さんにお届けしている会誌「建築士」をお届けする際に、チラシを同封することができる広告収入です。

A4サイズのチラシを同封する料金が1枚20円で1500の方に送り3万円と輸送量より安くコストパフォーマンスが高く、建築士にダイレクトに届くというメリットがあるため、営業しやすいという話になりました。

少しずつですが、広告料の実績も上がってきています。

今後の計画としては、来年度の予算では、営業に必要な委員の名刺の印刷費の計上、再来年度には「いしづち」をよりより良いものにするための予算計上へと繋がれたらと考えています。

また、皆さんのお知り合いで、チラシ広告を入れたいと言われる方がいらっしゃいましたら事務局までご一報ください。よろしくをお願いします。

〈いしづち〉2020/1

令和2年1月発行

発行人 会長 赤根 良忠

発行所 公益社団法人 愛媛県建築士会

〒790-0002 松山市二番町四丁目1-5 愛媛県建築士会館 2F

TEL (089) 945-6100 FAX (089) 948-0061

http://www.ehime-shikai.com E-mail: info@ehime-shikai.com

印刷所 アマノ印刷有限会社

情報・広報委員会・広報委員

委員長 / 大平 将司 副委員長 / 渡邊 道彦

編集委員 / 大上 恵子 山本 晶子 政石 信行 白石 学 武智 良太 成松弘之助

☆会員の皆様、住所等が変更になった時には事務局までお知らせください。(FAX 089-948-0061)

公益社団法人 愛媛県建築士会

会員住所等の変更届出

この様式は愛媛県建築士会の会員名簿データの変更のみです。建築士のデータの変更には使用できません。

【正会員・準会員】

		支部		年	月	日
ふりがな		生 年 月 日	大 昭 平	年	月	日
氏名						
変更部分のみ記入して下さい	現住所	〒 ー		TEL		FAX
	勤務先	名称				
		所在地	〒 ー		TEL	
	建築士資格	一級・二級・木造・準	登録年月日	昭・平	年	月
		登録番号		第		号

↓ 住所等に変更のあった建築士の方は下記の書類も提出してください。

建築士法上の住所等の届出については下記のとおりです。

建築士住所等の届出の次の記載事項(①～③)に変更があった場合、変更があった日から30日以内に(公社)愛媛県建築士会に申請者本人が届け出てください。

- ①住所、本籍等
- ②建築に関する業務に従事する者にあつては、その業務の内容
- ③勤務先の名称(建築士事務所にあつては、その名称及び開設者の氏名)及び所在地

書式は愛媛県建築士会のホームページからダウンロード出来ます。

メールマガジンで講習会や勉強会などの情報をご案内

メールマガジンにご登録いただいた方には、講習会や勉強会などの情報をメールでご案内します。登録メールアドレスはパソコンアドレス、携帯アドレス、どちらでも可能です。

ご案内メールの登録・変更・解除はHPから

<http://www.ehime-shikai.com/mailmagazine>